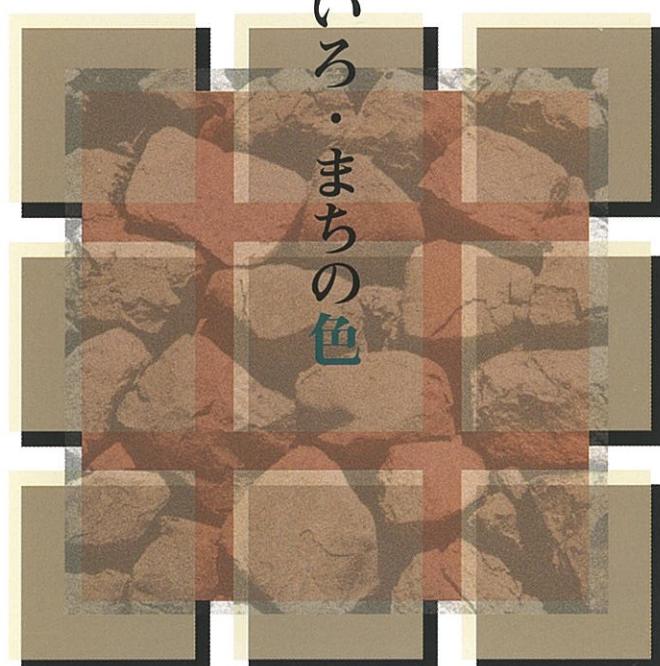


いい色・いろいろ・まちの色



岸和田市色彩景観誘導マニュアル

岸和田市

■ 目 次

第1章 色彩景観誘導マニュアル作成にあたって 1

1. 色彩景観づくりの必要性 1
2. 色彩景観誘導マニュアルの目的と位置づけ 1
3. 色彩景観誘導マニュアルの構成 1

第2章 岸和田市の色彩景観の現状 2

1. 市域全体からみたまちの色 2
2. 景観区ごとの色彩景観の現状 3

● 色彩の基礎知識

第3章 色彩景観の基本的とらえ方 5

1. 色彩景観の基本的視点 5
2. 快適な色彩景観形成に向けて 6

第4章 色彩景観形成の誘導基準 7

1. 色彩景観形成の基本コンセプト 7
2. カラーフレームの構成 7
3. カラーフレーム 9

第5章 色彩計画の進め方 13

● 建築物壁面カラーフレーム一覧

1. 色彩景観づくりの必要性

私たちが生活を営むまちの中にはさまざまな景観要素があり、これら全てに色彩が存在しています。

かつての日本のまちなみ景観には、自然素材である地場の資材の活用により、地域の景観に馴染んだ色彩調和が保たれていましたが、今日の素材技術の発達によって景観材料が自然素材から人工素材へと多様化し、さまざまな人工色が氾濫するようになりました。しかし、現状は建築物などの色彩の扱い方が明確でないことからまちなみが雑然とし、また地域性のない画一化した景観となっている地域が少なくありません。

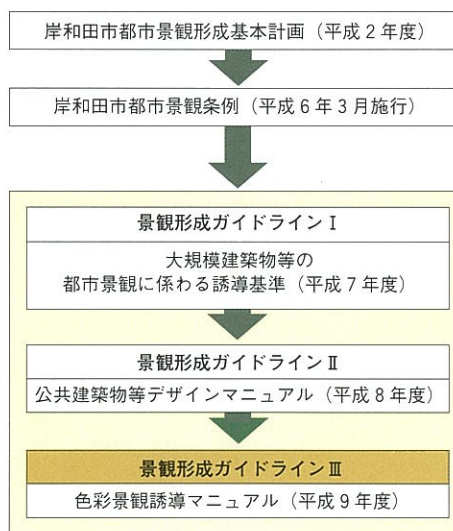
そこで、まちの中の色彩は「色彩景観」としてとらえ、地域の現状をふまえながら人工物の色彩のあり方や相互関係を検討し、地域に根ざした「色彩景観」を表現するための手法が求められています。



2. 色彩景観誘導マニュアルの目的と位置づけ

本市では、岸和田らしい都市景観の形成の実現を目指してさまざまな景観行政を進めています。平成2年度に「岸和田市都市景観形成基本計画」を策定、平成6年3月に「岸和田市都市景観条例」が施行され、その後、都市景観形成の先導的役割を果たす景観形成ガイドラインとして、平成7年度に「大規模建築物等の誘導基準マニュアル」、平成8年度に「公共建築物等デザインマニュアル」が作成されました。

岸和田市色彩景観誘導マニュアルは、これらの成果を受けてさらに景観行政を推進するものです。そして、岸和田の自然や風土に調和した魅力ある色彩景観形成を目的として、市職員のみならず市民及び事業者が色彩景観について十分理解し活用されるよう、色彩景観についてのとらえ方や、建築物等の色彩選定の際の目安となる手法をとりまとめたものです。



3. 色彩景観誘導マニュアルの構成

本マニュアルは、岸和田市らしい色彩景観形成に向けての手法として、右表で示した項目ごとにわかりやすくとりまとめています。

第4章、第5章は、色彩を検討する際に活用する章です。第3章は色彩景観の基本事項となりますので、色彩を検討する際に、その他の章は必要に応じて参照して下さい。

項目	内容
第1章 色彩景観誘導 マニュアル作 成にあたって	本マニュアルの目的や位置づけ、構成についてとりまとめています。
第2章 岸和田市の色 彩景観の現状	景観区ごとにどのような色彩があるかをとりえ、岸和田市全体の色彩の特徴をとりまとめています。
第3章 色彩景観の基 本的とらえ方	色彩景観の基本事項として参照 色彩景観に向けての基本的なとらえ方をとりまとめています。
第4章 色彩景観形成 の誘導基準	色彩を選定する際の目安として活用 岸和田市の望ましい色彩景観形成の考え方と、色彩構成要素ごとにカラーフレーム（色彩の考え方、色彩範囲）をとりまとめています。
第5章 色彩計画の進 め方	色彩計画を検討する際の手順として活用 色彩計画の基本プロセスと、色彩を検討する際のチェックリストをとりまとめています。

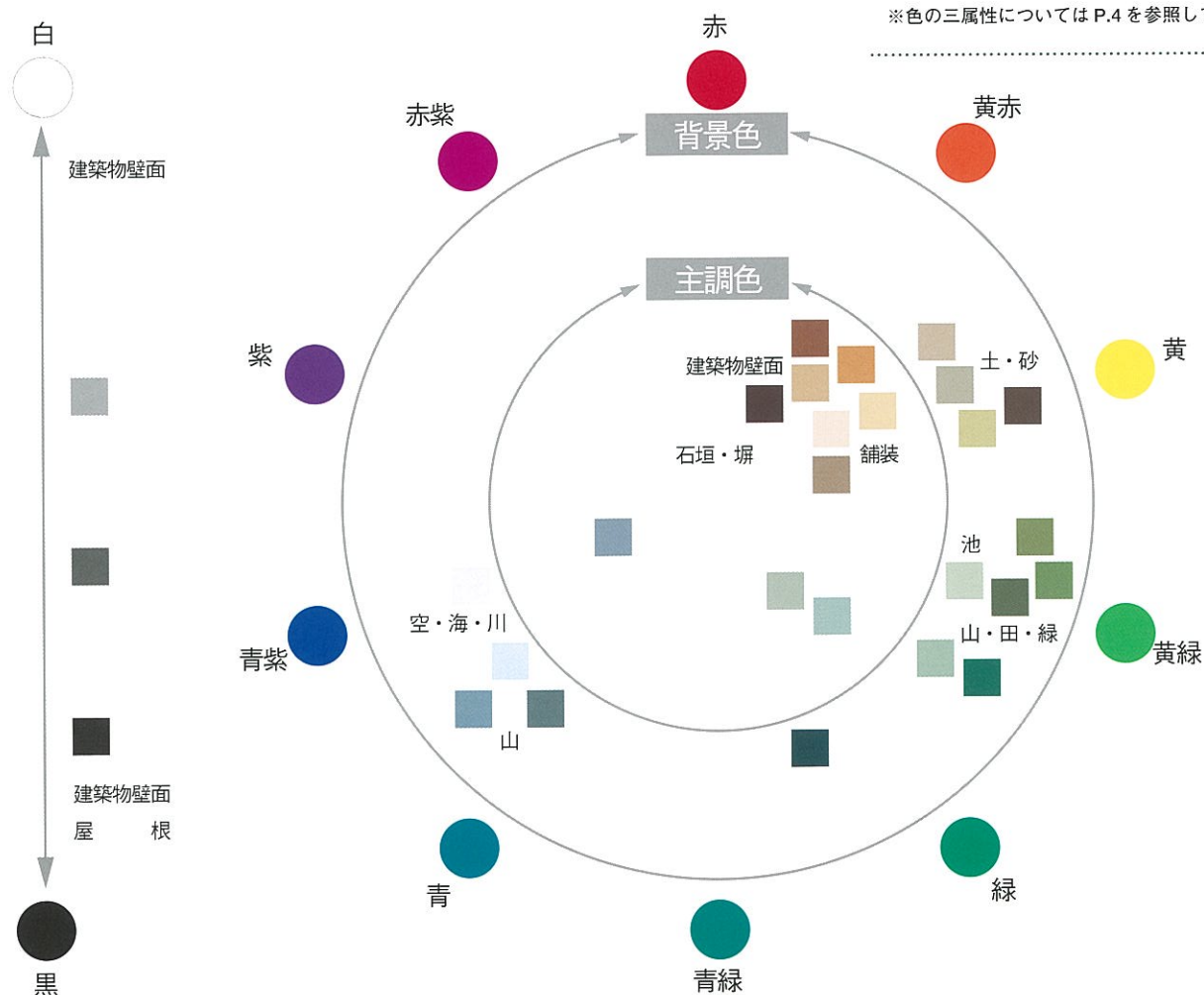
1. 市域全体からみたまちの色

岸和田市らしい色彩景観を形成していくには、岸和田のまちなみがどのような色をしているのかを知る必要があります。

岸和田市では、山や街路樹の緑、ため池や田園の緑、土や砂のベージュ等の色彩が、背景色として色彩景観に大きく影響を及ぼしています。また、建築物で多く見られる明るいベージュや板張りや石垣の暖色系、和瓦や白壁の無彩色の主調色は、自然になじんだ岸和田らしい色彩景観を構成しています。

しかし、市の南東に山なみが広がるため、海側からの遠景のまちなみは全体的にやや薄暗く感じられます。また、沿道や工業地では、色彩に秩序感がなく雑然とした地区も見られ、青や黄赤の民家の屋根はまちなみからはみ出しています。

ここでは、山間部から海岸部まで変化のある自然特性や、城下町としての歴史特性などから生み出された岸和田を代表する色彩を「背景色」「主調色」として下図にとりまとめ、地域らしい色彩を選定するための手がかりとします。



▼環境色.....

- 「背景色」 まちなみの背景となる色
自然景観（空、山、海、池、川等）や建築物全般
- 「主調色」 まちなみの基調となる色
街路樹の緑、建築物壁面（基調色）、屋根、舗装等
- 「強調色」 まちなみのアクセントとなる色
草花、ストリートファニチュア、ランドマーク、屋外広告物等

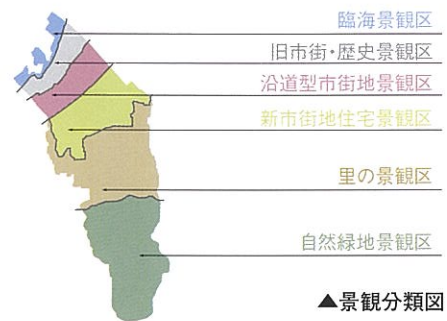
▼色の三属性から見た岸和田市の特徴は？.....

- 色相は？
建築物：暖色系の黄赤～黄系が多く、白や黒や焦げ茶の素材色も多く見られます。
屋 根：灰色の無彩色が岸和田らしい眺望景観を構成していますが、青や黄赤の洋瓦はまちなみから突出し違和感があります。
- 明度は？
建築物：大規模建築物は高明度（7～9）が多く、民家の黒っぽい壁は、素材色が多い周辺環境と調和しています。
- 彩度は？
建築物：低彩度（2以下）の色彩が多く、背景色の山や田園の緑（彩度5～6）になじんできます。高彩度の壁面や屋外広告物は、自然景観や無彩色の屋根や白壁が連続するまちなみから突出しています。

※色の三属性についてはP.4を参照して下さい。

2. 景観区ごとの色彩景観の現状

「景観形成ガイドラインⅠ」では、岸和田市の都市景観形成のあり方を「岸和田市都市景観形成基本計画」に基づいた6つの景観区ごとにとりまとめており、まちの色も各景観区ごとに特徴が見出されます。ここでは、それぞれの地区の色彩選定の参考となるよう、各景観区ごとに主な色彩景観と環境色についてとりまとめました。



景観区	主な色彩景観	主な環境色
臨海 景観区	●海や空の背景色の中に機能的な人工色が見られ、さわやかな開放感と無機質なイメージが混在した色彩景観となっています。 ・港湾 ・工場 ・漁港 ・沿道 ・公園	背景色（空／海／川／緑／土） 主調色（建築物壁面／屋根／舗装） 強調色（橋／港湾施設／屋外広告物／ストリートファニチュア）
旧市街・ 歴史 景観区	●白壁や板張り、石垣の素材色による歴史的まちなみの風格のある色彩を中心として、落ち着いたトーンの色景観が展開しています。 ・城下町 ・街道 ・業務地 ・駅周辺 ・住宅地	背景色（空／山／川／緑／土） 主調色（建築物壁面／屋根／石垣・塀・舗装） 強調色（屋外広告物／ストリートファニチュア）
沿道型 市街地 景観区	●近景では街路樹等の緑、遠景では山の緑が色彩景観に大きく影響を及ぼしていますが、沿道周辺では突出した色彩が多く見られます。 ・沿道 ・業務地 ・住宅地 ・公園 ・河川	背景色（空／山／川／緑／土） 主調色（建築物壁面／屋根／舗装） 強調色（屋外広告物／ストリートファニチュア）
新市街 地住宅 景観区	●前景のため池や田園風景、背景の山の緑と調和した穏やかな色彩景観を形成しています。 ・駅周辺 ・街道 ・住宅地 ・田園 ・ため池	背景色（空／山／川／田園／ため池／緑／土） 主調色（建築物壁面／屋根／舗装） 強調色（ストリートファニチュア／草花）
里の 景観区	●旧集落の瓦屋根や白壁、石垣などの素材色による色彩景観は、山なみや田園の緑と調和し、格調高い眺望景観を形成しています。 ・旧集落 ・山林 ・田園 ・開発地 ・公園	背景色（空／山／川／田園／ため池／緑／土） 主調色（建築物壁面／屋根／石垣・塀・舗装） 強調色（ストリートファニチュア／庭木）
自然 緑地 景観区	●旧集落の瓦屋根や石垣などの素材色による色彩景観は、山地や田園の緑になじみ、素朴な色彩景観を形成しています。 ・旧集落 ・山林 ・田園 ・開発地 ・公園	背景色（空／山／川／田園／緑／土） 主調色（建築物壁面／屋根／石垣・塀・舗装） 強調色（ストリートファニチュア／果樹）

● 色彩の基礎知識 ●

色彩を正確に伝えるには、数値による表示方法が最も適しています。色彩を系統的に整理して記号化したものを表色系といい、本マニュアルでは、JIS（日本工業規格）で規格されているマンセル表色系を用いています。

マンセル表色系

全ての色彩を数値で表わせる表色系で、色相、明度、彩度の「色の三属性」を用いて表現します。

○色相（H：Hue）：色味の度合いを表します。

R(赤)、Y(黄)、G(緑)、B(青)、P(紫)の5つの基本色相から、さらに中間色相としてYR(黄赤)、GY(黄緑)、BG(青緑)、PB(青紫)、RP(赤紫)を加え計10色相に分割します。さらに、それぞれを10等分し、全体が100分割になるように目盛りされています。各色相の中心色相の度数は5になります。

○明度（V：Value）：色の明るさを表します。

黒から白までを10段階に分けて表します。

（完全な黒を明度0、完全な白を10となります）

○彩度（C：Chroma）：色のあざやかさの度合いを表します。

無彩色を0とし、あざやかさが増すにつれ度数が増していきます。（彩度は色相によって異なりますが、最も高い赤の彩度で15程度です。）

<マンセル記号の表示と読み方>

- ・岸和田城の石垣の色です。（色味のある色を有彩色といいます）



2.5 Y 5 / 1
色相 明度／彩度
（に てん ご わい ご の いち）

- ・和瓦は明度が6の無彩色（灰色）です。



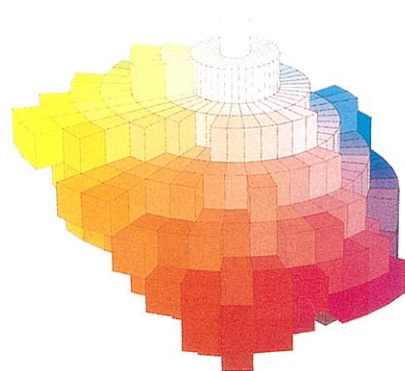
N 6
（えぬ の ろく）

○トーン

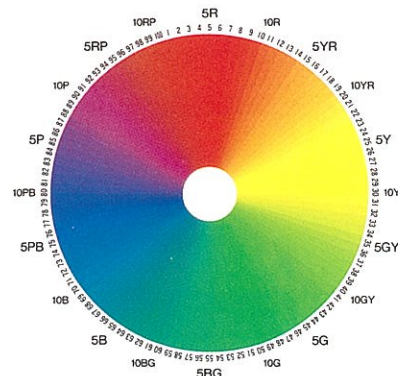
三属性のうち特に明度と彩度を組み合わせた色の濃淡、明暗、強弱等などの「色の調子」を表します。

トーン図は、縦軸に明度を表示し、上が「明るい」、下が「暗い」となります。横軸は彩度を表示し、無彩色から右方向に彩度が高くなります。

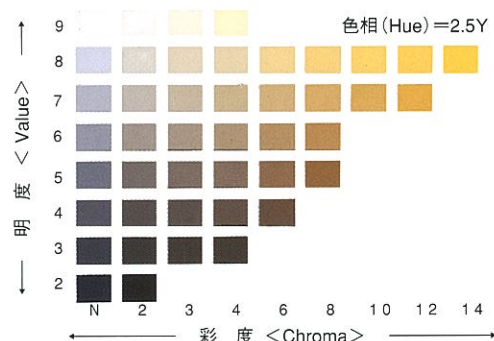
▼マンセル色立体



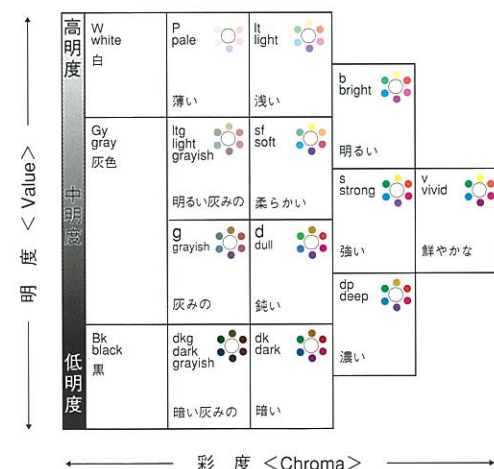
▼マンセル色相環



▼明度と彩度



▼トーン図



第3章 色彩景観の基本的とらえ方

1. 色彩景観の基本的視点

(1) 色彩の役割

色彩には記号的役割を果たす機能色と、イメージなどを連想させる情緒色があります。機能色は、工場や道路交通標識などでよく見られ、一般に赤は危険、黄は注意、緑は安全を意味します。情緒色は、赤は情熱、青は冷たさを連想させ、寒暖感、軽重感、派手・地味感などをイメージします。

色彩景観では、建築物等の色彩イメージとこれらの背景となる景観との整合性を図ることが大切です。



△岸和田市では、城下町をイメージさせる白や黒の無彩色が多く見られます。

(2) 色彩景観の見え方と距離

人と対象物の距離の関係は、遠景・中景・近景に区分できます。

色彩景観では、周辺の建築物との秩序感のある色彩の関係性が重要であり、特に中景の見え方に注意をはらう必要があります。

▽岸和田市の歴史的なまちなみでは、遠景・中景では瓦屋根や建築物等の連続性、近景では風合いのある自然素材との調和が特に重要です。

	遠景	中景	近景	近接景
色彩景観の見え方	 建築物の細部形状がはっきりせず、色のかたまりとして地域全体の色彩構成が把握できる。	 建築物全体が把握でき、形状や配色がはっきりする。また、周辺の景観構成要素の色彩関係が把握できる。	 建築物の素材感や色彩の関係が把握できる。	 建築物の素材の細部の模様や、色彩の関係が把握できる。
景観構成要素	まちなみ、山並み、空、河川、ため池、田園等	建築物全体、道路面、屋外広告物、街路樹、モニュメント等	建築物の一部、草花、道路面、標識、サイン等	建築物の一部、草花、標識・サイン等

(3) 色彩と素材感

土や木材、石材などの自然素材は、自然景観と調和し地域になじむ色として人々にやすらぎを感じさせます。また、ステンレスやコンクリートなど人工素材と組み合わせることにより、まちなみに新鮮なイメージを与えます。しかし、樹木の緑、空や水の青等の自然の色やレンガ色などの自然素材を塗料等で模した人工素材は、自然のもつ風合いが感じられないので、取り扱いには十分な配慮が必要です。



△土壁や板張り、石垣の暖色系や白壁や瓦の無彩色は市の伝統色となっています。

(4) 移り変わる色彩

色彩景観は、場所や季節や時間、気候、風土によりさまざまな表情を見せてくれます。素材色は長い時間と共に変化し、環境になじむ色彩となります。

人工物の色彩は、移り変わる自然の色彩の美しさが映える落ち着いた色彩や、飽きのこない色彩や、陰湿感や閉塞感を軽減する温もりのある色彩が望まれます。



△岸和田市では南東部に山なみが連なるため逆光となりやすく、海側からはまちなみがややうす暗く感じられます。

3. 快適な色彩景観形成に向けて

(1) 環境特性と色彩

色彩景観は、商業地、業務地、住宅地、工業地などの用途の違いや、市街地や郊外の環境特性により異なります。地域らしさが感じられる色彩景観とは、地域性や景観特性をどのように把握し、どのような色彩が望ましいかを検討することから始まります。



△岸和田市は、地形条件等の違いにより景観区ごとに色彩景観の特徴を見い出すことができます。

(2) 配色構成

建築物の外観は、壁面などの大面積を占める基調色と、扉や窓枠などの小面積に使用される強調色があります。変化や魅力的な色彩景観を形成するには、建築物などの外観の色彩面積や形態を考慮し、パランスのとれた配色を構成することが大切です。

▽岸和田市では、だんじり祭りの鮮やかな色彩は変化する色（可動色）であり、地域性を演出する色としてサインや建築物のアクセントに用いられています。

強調色	地域の演出や魅力づけを表現する色彩で、色彩景観の「図色」となります。	アクセントカラー
基調色	景観への影響力が大きい公共性を有する色彩で、色彩景観の「地色」となるため、対象物の色彩選定は基調色から検討します。	アソートカラー（補助色）
		ベーシックカラー

(3) 配色調和

建築物や構造物の色彩を組み合わせることによって、景観にまとまりをもたせることを配色調和といいます。配色調和には、類似調和と対比調和がありますが、一般的に基調色は落ち着いたトーンの類似調和が基本となります。対比調和は、建物の形状や部位を効果的に演出する強調色などに用います。

▽岸和田市では、類似色相だけでなく無彩色と素材色組み合わせた重厚な配色も見られます。

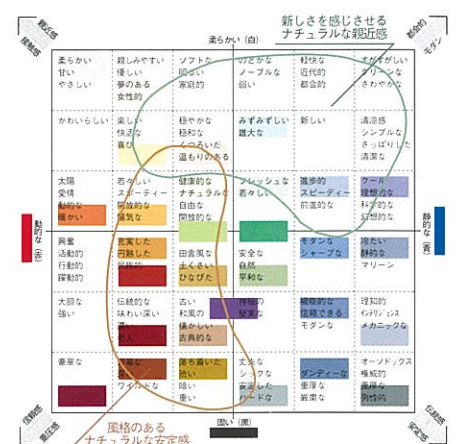
類似色相		対比色相	
	同一・類似色相による調和 同一色相、あるいは、色相、明度、彩度が比較的近い色から選定		対比色による調和 対照的な関係に、ある色相やトーンを用いた配色

(4) 色彩景観とイメージ

対象となる建築物などの施設イメージと背景となる景観イメージとの色彩の相互関係を把握することは、周辺環境と調和した色彩選定の重要な手がかりとなります。このため、人々の共通感覚を形容詞で表現し、色と言葉の結びつきを右図に示したイメージスケールなどに配置することにより、色とイメージの整合性を確認することができます。

参 考	岸和田市全体の景観イメージを、右図の環境イメージマップに配置し、色彩景観の方向性を把握してみましょう。また、景観区や地区ごとの色彩景観についても、環境イメージマップを色彩選定の参考としてご利用下さい。 <岸和田市全体の景観イメージ例> ● 風格を感じさせるナチュラルな安定感…… 伝統的、穏和な、落ち着いた ● 新しさを感じさせるナチュラルな親近感…… 新しい、親しい、都会的
-----	---

▼環境イメージマップ



1. 色彩景観形成の基本コンセプト

岸和田市の風土の色は、自然の豊かな恵みに包まれながら、長い年月をかけて伝統的なまちなみや祭りなどのそこに住む人々の営みから培われてきました。そしてこれらの色彩は、岸和田らしいまちなみ景観になくてはならない色彩として今でも地域に根づいています。

このことから、岸和田市の色彩景観形成の基本コンセプトと誘導方針を以下にとりまとめました。

基本コンセプト	人と自然の営みが息づく“あじわい豊かな”色彩景観の創出	
誘 導 方 針	温もりと風格のある色彩を基調とします	伝統的な自然素材の暖色系（黄赤～黄）や無彩色（白、灰、黒）の色を基調とし、城下町としての風土に根ざした情緒ある色彩景観を守り育てます。
	低彩度の穏やかな色彩でまとめます	山の緑やため池の自然景観や、灰色の和瓦が連なるまちなみ景観から突出するような色味の強い色は避け、四季の移り変わりや、だんじり祭りをはじめとする人々の生活の営みが美しく映える彩度をおさえた穏やかな色彩景観を形成します。
	地区の特性を反映した色彩を表現します	「臨海景観区」「旧市街・歴史景観区」「沿道型市街地景観区」「新市街地住宅景観区」「里の景観区」「自然緑地景観区」の6つの景観区の特徴を考慮し、それぞれの地区の個性や変化が柔らかく感じられる色彩景観を形成します。

2. カラーフレームの構成

（1）カラーフレームの構成

カラーフレームでは、建築物や構造物の新設や補修の際の色彩を決定するための手法として、これらの色彩を「基調色（ベーシックカラー／アソートカラー）」と「強調色（アクセントカラー）」に大別し、景観特性や施設特性にもとづいた適用範囲や色彩の考え方、色彩範囲を示しています。

また、前章で示した「色彩景観の基本的とらえ方」は色彩景観づくりのための手引き書となりますので、これらも色彩選定の参考にしてください。

基 調 色	秩序形成に向けての色彩群で、建築物や構造物の大きな面積に使用します
（ベーシックカラー） （アソートカラー）	・まとまりのある色彩景観を創出するためには、基調色の調和が重要となります。色彩景観を構成する主要な要素である「建築物の壁面」「屋根」「舗装」「ストリートファニチュア」の色彩手法をとりまとめています。
強 調 色	変化・魅力づけのための色彩群で、建築物や構造物の小面積に使用します
（アクセントカラー）	・地域らしい魅力的な色彩景観を演出するために、建築物や構造物全般の色彩手法をとりまとめています。

(2) カラーフレームの活用

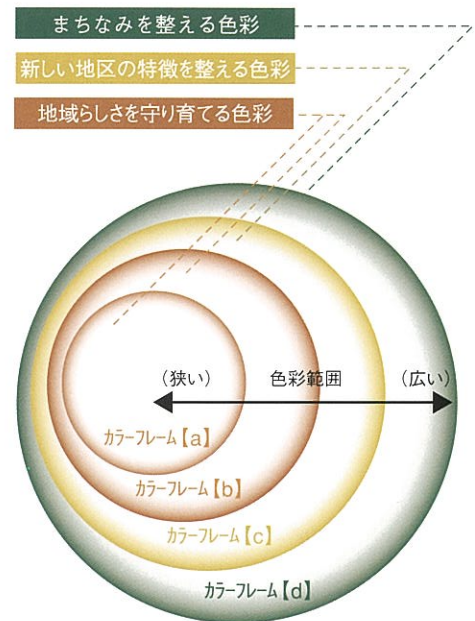
カラーフレームは、「建築物の壁面」「屋根」「舗装」「ストリートファニチュア」「アクセントカラー」の順に設定していますので、色彩を選定する際には、以下に示したような方法で活用して下さい。

適用地区	○目指していきたい色彩景観の特徴に応じて、カラーフレームを段階別またはタイプ別に分類しています。各カラーフレームに適用する地区を把握します。
色彩の考え方	○各カラーフレームの色彩の考え方を把握します。
色彩範囲	●「建築物の壁面」 - マンセル値をベースとしたマンセル色票（色見本）を、一覧表でとりまとめています。（一覧表は本マニュアルの最終ページです。） - ベーシックカラーは、アソートカラーより高明度を基本としています。 ▼建築物壁面のカラーフレーム一覧 - 誘導していきたい範囲を4段階に設定しています。 色見本は、色彩選定の参考にして下さい。（色見本以外にも多くの色が含まれています。） - 使用頻度の高いと思われる色相を中心としています。 表示されていない色相を検討する場合は、両側の色相の色彩範囲を参考して下さい。 ・色見本が貼付されていない色彩範囲を使用する場合は周辺環境との調和に充分注意して下さい。 ※特に寒色系（黄緑（GY）～赤紫（RP））は充分な注意が必要です。 ●「屋根」「舗装」「ストリートファニチュア」 - ベーシックカラーの色彩選定の目安として、マンセル値による色彩範囲を設定していますので、できるだけこの範囲内で色彩を選定してください。 ○木材や石材等の伝統的な素材色は対象外としています。
カラーサンプル	○マンセル色票やマンセル値による色彩範囲の中には、かなり多くの色彩が含まれています。このため、設定した色彩範囲内の色の傾向がイメージしやすいようにカラーサンプルを貼付していますので色彩選定の参考にしてください。 ○アクセントカラーは、地区の特性に応じてさまざまな色彩が考えられますが、色彩選定の一例としてカラーサンプルを貼付しています。 ○マンセル値に＊印のついているカラーサンプルは、建築物壁面のカラーフレーム一覧にも貼付しています。

3. カラーフレーム

● 建築物の壁面（色彩景観の主要な構成要素です）

- ・ある程度絞り込んだ色彩範囲からある程度幅を持たせた色彩範囲までをカラーフレーム【a】～【d】の4段階に設定しています。（右図参照）
- ・適用地区は、『岸和田市都市景観形成基本計画』で抽出されている「重点整備地区（都市型／自然調和型／歴史・伝統保全型）」、「重点整備地区を除く歴史・伝統保全地区」、それ以外の市全域を「一般地区」として分類し、各景観特性に応じてカラーフレームを設定しています。「重点整備地区以外の歴史・伝統保全地区」は、岸和田らしさが感じられる城下町や街道、旧集落が対象となります。
- ・適用建築物は、まちなみ景観の先導的役割を担う「公共建築物」と「大規模建築物」に重点を置きますが、地区の特徴を積極的に“守る、育てる、整える”ために、重点整備地区と重点整備地区以外の歴史・伝統保全地区では「住宅」も対象としています。



● カラーフレーム【a】 ……地域らしさを守り育てる（公共建築物／大規模建築物）

最も地域らしさが感じられる城下町、旧集落の歴史的なまちなみ景観や、山やため池や河川の自然の景観を守り育てていくために、積極的に使用していきたいカラーフレームです。

適用地区	○重点整備地区 (自然調和型) ・春木川周辺地区 ・久米田池周辺地区 ・神於山周辺地区 ・牛滝山周辺地区 ・葛城山周辺地区	色彩の考え方	・基調色は明るく、低彩度の黄赤～黄系とします。 ・同一色相、類似色相の配色構成を基本とします。 ・伝統的な自然素材や風土色を基本とします。 ・アソートカラーは、ベーシックカラーよりも低明度、低位置に配色します。 ※アクセントカラーは、基調色と同一色相、類似色相で明度や彩度に差をもたせることにより、格調高い色彩景観を演出することができます。											
	○重点整備地区 (歴史・伝統保全型) ・岸和田城周辺地区 ・阿間河滝周辺地区	カラーサンプル 基調色	ベーシックカラー											
	○重点整備地区以外の 歴史・伝統保全地区		アソートカラー											

※これらの景観に影響を及ぼす、あるいは「旧市街・歴史景観区」「里の景観区」「自然緑地景観区」に立地する公共建築物／大規模建築物は、この範囲内から積極的に色彩を選定することをお薦めします。

●カラーフレーム【b】地域らしさを守り育てる（住宅）

最も地域らしさが感じられる城下町、旧集落の歴史的なまちなみ景観や、山やため池や河川の自然の景観を守り育てていくために、積極的に使用していきたいカラーフレームです。

適用地区	○重点整備地区 (自然調和型) ・春木川周辺地区 ・久米田池周辺地区 ・神於山周辺地区 ・牛滝山周辺地区 ・葛城山周辺地区	色彩の考え方	・基調色は明るく、低彩度の黄赤～黄系とします。 (大規模建築物よりも、明度・彩度にやや幅をもたせます。) ・同一色相、類似色相の配色構成を基本とします。 ・伝統的な自然素材や風土色を基本とします。 ・黒や灰色の無彩色や、焦げ茶などの灰味の暖色系も重厚感があり、自然や歴史的なまちなみに調和します。 ※庭の樹木や草花は、アクセントカラーとしてまちなみに潤いのある上質感を醸し出します。													
	○重点整備地区 (歴史・伝統保全型) ・岸和田城周辺地区 ・阿間河滝周辺地区		カラーサンプル	基調色	ベーシックカラー											
	○重点整備地区以外の 歴史・伝統保全地区				アソートカラー											
				1	10YR8/1*	2	5Y8/2*	3	5Y8/1.5	4	10YR7/1.5	5	2.5Y7/2*	6	5Y7.5/2*	
				7	10YR6/1.5	8	10YR6/3*	9	2.5Y5/1*	10	7.5YR5/2	11	10YR5/2	12	N5	

※これらの景観に影響を及ぼす周辺の住宅や「旧市街・歴史景観区」「里の景観区」「自然緑地景観区」の住宅は、この範囲内から積極的に色彩を選定することをお勧めします。

●カラーフレーム【c】新しい地区の特徴を育てる（公共建築物／大規模建築物／住宅）

新しい地区の特徴を育てるために、積極的に使用していきたいカラーフレームです。

適用地区

○重点整備地区（都市型）

- ・岸和田旧港再開発地区
- ・岸和田駅周辺地区
- ・国道26号沿道地区
- ・東岸和田駅周辺地区
- ・岸和田コスモポリス地区

色彩の考え方

- ・基調色は低彩度とし、できるだけ黄赤～黄系を使用することを基本とします。
- ・アソートカラーは、ベーシックカラーよりも低明度、低位置に配色します。
- ・類似色相、類似トーンの配色構成を基本とします。

※基調色との色相差や、トーン差のあるアクセントカラーを用いることにより、施設の個性や地区イメージを演出することができます。

カラーサンプル

基調色

ベーシックカラー

1 10YR7.5/1*	2 2.5Y8/2	3 5Y7.5/2	4 10Y8/1.5	5 5GY8/1*	6 5B7.5/0.5
7 10YR7/2*	8 2.5Y7.5/2.5	9 5Y7/1.5	10 5GY7/1*	11 5G7/1	12 5PB7/0.5

アソートカラー

13 5YR6/1*	14 10YR6/4	15 2.5Y6/2*	16 5GY6/1*	17 5BG6/1*	18 10B6/1
19 5YR6/2*	20 10YR5.5/2.5	21 5Y4.5/1	22 5GY5/1	23 5BG5/1*	24 5PB5/1*

※重点整備地区周辺や「沿道型市街地景観区」「新市街地住宅景観区」の公共建築物／大規模建築物／住宅は、この範囲内からできるだけ色彩を選定することをお勧めします。

●カラーフレーム【d】まちなみを整える（公共建築物／大規模建築物）

市全域のまちなみから突出した色彩を取り除き、美しい色彩景観を整えるため、重点整備地区等の特徴的な景観を有する地区よりも色彩範囲の幅をもたせた一般地区のカラーフレームです。

適用地区	○一般地区（「重点整備地区」と「重点整備地区以外の歴史・保全地区」を除く市全域）		
景観区	色彩景観イメージ	色彩の考え方	カラーサンプル
臨海景観区	海への眺望や親水空間を考慮した「明るく、さわやかな」色彩景観	・基調色は、低彩度のカラーフレーム【d】を使用します。 ・類似色相・類似トーンを基本とします。	
旧市街・歴史景観区	岸和田城周辺の歴史的なまちなみになじんだ「穏やかで、風格のある」色彩景観	・基調色は、カラーフレーム【d】の使用をできるだけ避け、低彩度の黄赤～黄系を基本としたカラーフレーム【a】、【b】を積極的に使用します。 ・伝統的な自然素材を積極的に使用します。 ・類似色相を基本とします。	
沿道型市街地景観区	都市的な機能を活かした「シンプルで、落ち着いた」色彩景観	・基調色は、低彩度の黄赤～黄系を基本としたカラーフレーム【c】をできるだけ使用します。 ・カラーフレーム【d】を使用する場合は、周辺との調和に十分配慮します。 ・類似色相・類似トーンを基本とします。	
新市街地住宅景観区	新旧のまちなみとの調和や、ため池や山の緑になじんだ「快適で、親しみやすい」色彩景観	・基調色は、低彩度の黄赤～黄系を基本としたカラーフレーム【c】をできるだけ使用します。 ・カラーフレーム【d】を使用する場合は、周辺との調和に十分配慮します。 ・類似色相・類似トーンを基本とします。	
里の景観区	旧集落や、田園風景になじんだ「ナチュラルで、深みのある」色彩景観	・基調色は、カラーフレーム【d】の使用をできるだけ避け、低彩度の黄赤～黄系を基本としたカラーフレーム【a】、【b】を積極的に使用します。 ・伝統的な自然素材を積極的に使用します。 ・類似色相を基本とします。	
自然緑地景観区	旧集落や、山林にとけ込む「ナチュラルで、深みのある」色彩景観	・基調色は、カラーフレーム【d】の使用をできるだけ避け、低彩度の黄赤～黄系を基本としたカラーフレーム【a】、【b】を積極的に使用します。 ・伝統的な自然素材を積極的に使用します。 ・類似色相を基本とします。	

※・英数字はカラーフレーム【a】【b】【c】のカラーサンプルと対応（P.9～10参照）
・上段：ベーシックカラー／下段：アソートカラー

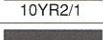
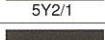
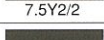
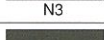
※一般地区の色彩範囲はカラーフレーム【d】までを対象としますが、景観区の特徴を育てるために、各景観区の色彩の考え方に対応したカラーフレームから色彩を選定することをお薦めします。

●屋根（眺望景観の主要な構成要素です）

「旧市街・歴史景観区」「里の景観区」「自然緑地景観区」で積極的に色彩誘導します。

○色彩範囲

〔色相〕 N／5R～10Y 〔明度〕 5以下 〔彩度〕 3以下

色彩の考え方	歴 史 ・ 保 全 地 区	・和瓦をはじめとする無彩色の和瓦を積極的に活用します。 ・無彩色や暗い灰味の焦げ茶色を基調とします。	カラーサンプル				
	一 般 地 区	・無彩色や低・中明度、低彩度の暖色系を基調とします。					

●舗装（色彩景観の基盤となる構成要素です）

まちなみをささえる安定感のある色彩とします。

○色彩範囲

〔色相〕 N／5R～10Y 〔明度〕 2～7 〔彩度〕 3以下

色彩の考え方	一般地区	・中明度、低彩度の暖色系を基調とします。 ・石材等の自然素材を活用します。 ・周辺の建築物や構造物との調和を図ります。	カラーサンプル					
	公園緑地	・中明度、低彩度の暖色系を基調とします。 ・木材やレンガ、石材等の自然素材を活用します。 ・彩度は、一般地区よりもやや幅をもたせます。						

●ストリートファニチュア（色彩景観の基盤となる構成要素です）

まちなみの基盤となるストリートファニチュアが対象です。

○色彩範囲

〔色相〕 N／5R～10PB 〔明度〕 3～7.5 〔彩度〕 3以下

色彩の考え方	パーゴラデッキ等	・緑やまちなみになじむ低～中明度、低彩度を基調とします。 ・大型構造物の基調色は、できるだけ暖色系を用います。	カラーサンプル				
	ベンチくず入れ等						
	電話ボックス街路灯フェンスボラード等	・低明度、低彩度を基調とします。					

●アクセントカラー（地域らしさを演出する色彩です）

まちなみに地域の個性や魅力づけを図ります。

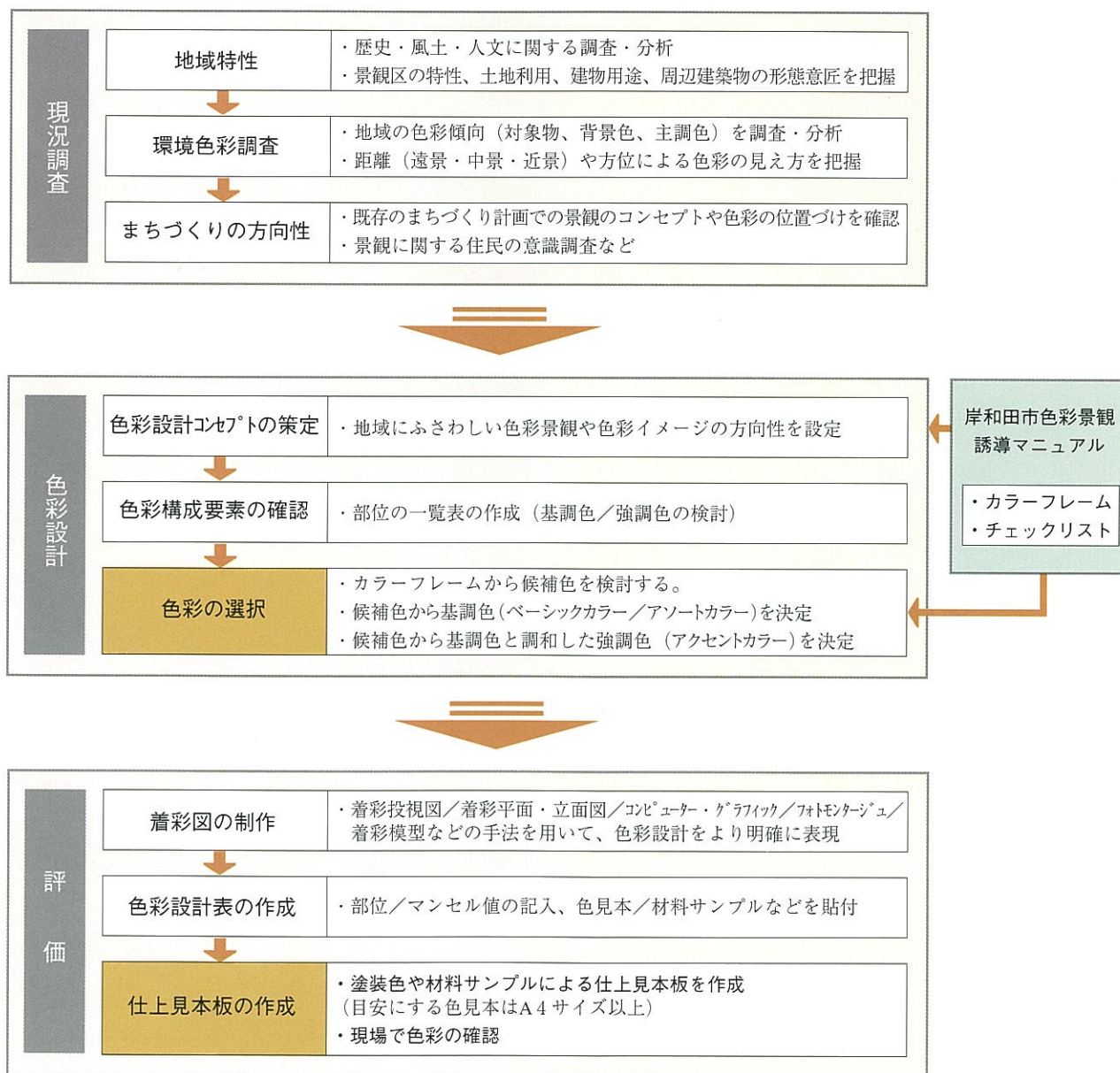
色彩の考え方	・建築物は、基調色とのバランスを考慮しながら、手摺や扉部、窓枠などのポイントとなる素材や部位に使用します。 ・ストリートファニチュアは、ポイントとなる素材や部位に活用します。構造物そのものをまちのアクセントとして演出する場合は、煩雑なイメージを与えないよう周辺環境との調和に十分な配慮が必要です。 ・単一色を利用する場合は、シンプルな演出効果が得られますのでお薦めします。多数色は、トーン調和を基本とします。	カラーサンプル					
							

建築物や構造物の新築、増築、改築を行う場合、地域の特性を活かし、景観としてのまとまりを考慮した色彩計画を行う必要があります。

対象物によっては実施の手続きなどが異なりますが、本マニュアルの「カラーフレーム」を色彩決定の目安とした基本プロセスにもとづいて、各対象物の色彩計画を行って下さい。

「チェックリスト」は色彩設計のための基本的検討項目としてとりまとめたもので、全ての地区に均等に検討する必要はありませんが、地区の特性や色彩計画のコンセプトに合わせて重要度のランクづけを行い、その順に色彩を検討してください。また、実施にあたって市への届出図書としてだけでなく、よりよい色彩設計を行っていくための重要ポイントとして「カラーフレーム」と共に活用してください。

色彩計画の基本プロセス



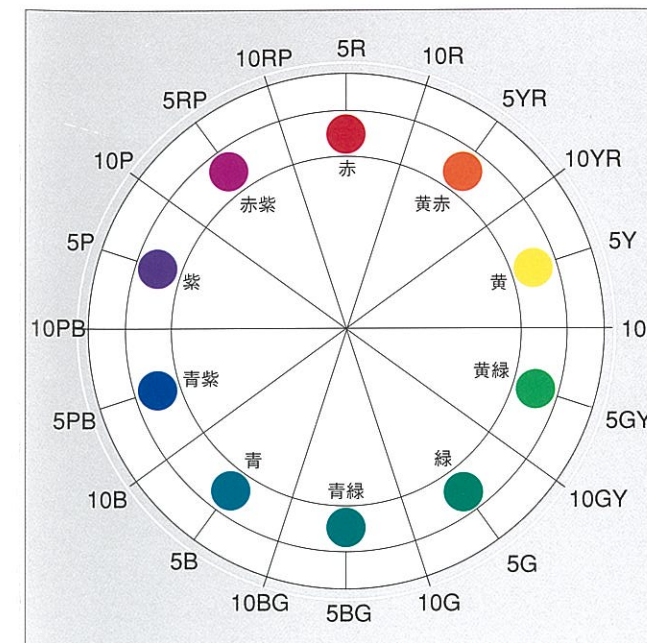
色彩計画チェックリスト

項 目	概 要
景観要素の色彩を整理する	・色彩の面積効果を考慮し、誘目性の順位づけを行う ・大きな面積を占める基調色は、基本的に低彩度色を使用する
周辺景観との調和や連続性を考慮する	・まちなみの色彩は類似調和、色相調和、トーン調和を基本とする ・隣接する建物相互の色の差は小さくし、連続性をつくりだす ・舗装材やストリートファニチュアの色調をそろえ連続性をつくりだす
自然の色に配慮する	・人工物の色彩は自然の緑の鮮やかさを越えない範囲とする
まちなみから突出しないように工夫する	・多くの色数の使用はできるだけ避ける ・黄緑～赤紫系を使用する場合は、低彩度色であっても十分に注意する ・極端に暗い色や、明るい色は十分に注意する
色彩イメージを活かす	・まちづくりのコンセプトや景観イメージと整合性のある色を選ぶ ・地区のイメージやテーマカラーをアクセントとして小面積に使用する
素材の色を活かす	・なるべく自然の材料を利用する ・地場の素材を利用して地域の個性をつくる ・素材は素材のままで使用する ・レンガ等の自然素材と同色の人工色の使用には十分注意する
地域に蓄積された色彩を活かす	・地場で伝統的に使われてきた色彩、配色、素材の組み合わせなどを活用する ・その地域を特徴づけている色彩を活かす
形態・素材にあった色使いをする	・形態を無視した色分けはしない ・素材の特長をいかした色使いとする
新しい色彩景観形成を考慮する	・既成概念にとらわれすぎないで、創造的な色使いをする ・新しい色彩表現の可能性を追求する ・但し、周辺環境との調和に十分配慮して慎重に取り扱う
経年変化に配慮する	・飽きのこない色を使用する ・変色、汚れの少ない色彩とする
まちのにぎわいの演出に工夫する	・建物の低層部には、にぎわいを演出する色使いも考慮する ・季節感を彩る祭りの色彩を演出する ・にぎわいをつくるための流行色はとりかえやすい部分に使用する ・具象的なイラストによる表現はできるだけ避ける
騒色を取り除く	・まちなみから突出する屋外広告物、ストリートファニチュア等の高彩度色は取り除く

● 建築物壁面のカラーフレーム一覧

色相	無彩色 N	赤 5R	黄赤				黄					
			5YR				10YR					
ベーシックカラー												
明度												
▲												
▼												
アソートカラー												
彩度	0	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3	4

色相	無彩色 N	黄緑 5GY	緑 5G	青緑 5BG	青 5B	青紫 5PB	紫 5P	赤紫 5RP
ベーシックカラー								
明度								
▲								
▼								
アソートカラー								
彩度	0	1	2	3	1	2	3	1



マンセル色相環

注) 色見本は印刷のため、質感を伴った正確な色とは異なります。実際に色を用いる場合は、日本塗料工業界の「塗料用標準色見本帳」や「JIS 標準色票」等の色票で色を確認して下さい。

● 適用範囲

色相	無彩色 N	赤 5R	黄赤 5YR	黄 10YR	黄 2.5Y	黄緑 5GY	緑 5G	青緑 5BG	青 5B	青紫 5PB	紫 5P	赤紫 5RP
ベーシックカラー												
明度												
▲												
▼												
アソートカラー												
彩度	0	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3	4

カラーフレーム	色彩範囲	色彩の特徴
[a]		地域らしさを守り育てる色彩
[b]		新しい地区の特徴を育てる色彩
[c]		まちなみを整える色彩

岸和田らしさを目指した景観形成ガイドラインⅢ

～いい色・いろいろ・まちの色～

岸和田市色彩景観誘導マニュアル

発 行／岸和田市

〒596-8510 岸和田市岸城町7番1号

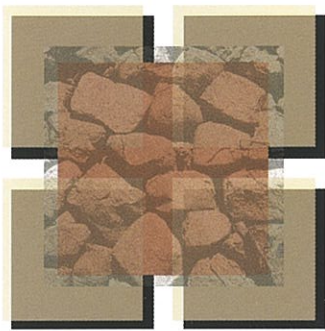
TEL 0724 (23) 2121 代表

発 行 日 1998年3月

編 集／岸和田市都市整備部都市計画課

作業機関／日本ペイント（株）カラーデザインセンター

印 刷／寿精版印刷（株）



岸和田市

不